

人文評論研究会・講演会

鄭人澤の文学と総力戦

李慧真(イ・ヘジン／韓国・世明大)



(日時) 2020年6月20日(土)16:00～18:00 (使用言語)韓国語

(場所) ズーム会議 [ID] 915 4299 4746 [PW] 719877

鄭人澤(1903-53)は植民地朝鮮の小説家として、1930年代中盤から朴泰遠らと同様に、市井の人々の生活相をよく描く作家として活躍しましたが、いわゆる「総力戦体制」のもとで、時局に迎合する作品や評論も残しました。また、主として朝鮮語で作品を書いていた彼は、1930年代末ごろから日本語でも創作を始め、日本語創作集『清涼里界限』(1941)なども残しました。解放後は北朝鮮に渡り、まもなく病死したと伝えられますが、作家・朴泰遠とは1930年代から北朝鮮に渡った以降も親交があったといわれています。今回は、この鄭人澤の日本語作品を韓国語に翻訳し、また関連の研究を数多くされてきた李慧真さんに、鄭人澤の文学と総力戦の関連様相についてお話し頂きます。



李慧真(イ・ヘジン／世明大学校教養大学副教授) 韓国近現代文学。韓国外国語大学校大学院国語国文学科博士課程修了(文学博士)。韓国外大・世明大・江原大講師、民族問題研究所研究員などを経て、2013年から現職。この間、東京外大研究員、東京大学総合文化研究科招聘研究員などを歴任。主要業績として、『帝国のアイドル』(本とともに、2020)、『思想としての朝鮮文学』(ソミョン出版、2013)、『鄭人澤作品集』(編訳／現代文学、2010)、『崔載瑞日本語小説集』(訳書／ソミョン出版、2012)など。

【主催】科研費基盤研究(B)(代表・渡辺直紀／20H01252)「冷戦文化形成期(1945-1970)韓国文学・文化史の再認識」

【問合せ】武蔵大学人文学部・渡辺直紀研究室 wata2002@hotmail.com